

自然保護委員会 自然観察会
鵜殿ツバメ観察 2019年8月5日(月) 16:30JR 高槻集合
参加者：斧田一陽、武田壽夫、豊田哲也、河野直子
案内と説明：又野野淳子さん(高槻野鳥の会)

【淀川本流の夕景】



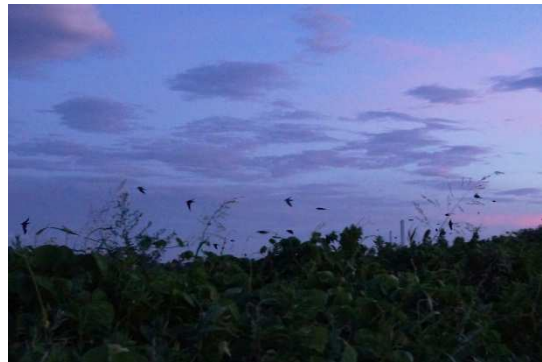
今年は高槻市道鵜町の淀川の中州、鵜殿の葦原の真ん中に立つ。大阪近郊で、こんなに広々とした大きな空が見えるとは！ここを訪れるたびに感激する。この日は川風が涼しく、この10年くらいのうちで一番夕焼けが見事だった。

葦の上をカワラヒワの20、30、50羽の群れが次々と飛んでゆく。合計すると1000から1500羽くらいかなあと、高槻市の又野さんが教えてくれる。ツバメが夕焼けの中、月の周りに次々と現れる。そして葦原と淀川を往復。連日の暑さで、燕ものどが渴いているのか、川の水面をいつも以上にしきりと飛ぶ。

【ツバメを待つ】



【葦原にかすみ飛ぶツバメの群舞】



ツバメがねぐらとする葦は葉が柔らかく、風になよなよと揺れる。鵜殿では一枚の葉に1羽か2羽、去年の平城宮では2～3羽泊まることもあり、豊中の住宅地の池では一つの葉に5羽くらい泊まっていることも。

鵜殿に葦がこれほど残ったのは、よしずの産地だったことが大きい。宮内庁雅楽の箏楽のリード蘆舌(ろぜつ)は淀川の葦が最適。そして燕にも快適なねぐらであったのが、今年はどうしたことか、毎年3万～5万のツバメが見られたのに、5000～1万くらいのように思えた。今年は昆虫が少ないこと、新名神の工事なども影響しているのかと。人間の手が自然を壊してゆく。

(河野 記)